

ごあいさつ

東日本を襲った未曾有の大災害。連日のテレビ報道を見ていると本当に心が暗くなります。先日、あるイベントで「今、私たちにできること」と題したパネルディスカッションを行いました。パネラーをはじめ会場の200名あまりの参加者が真剣に考えました。

阪神淡路大震災でボランティア活動をされたあるパネラーの方はこうおっしゃいました。『今はまだできることは限られている。とりあえずは義援金に応募していただきたい。そして、復興シーンになったら、いろいろな支援が必要となってくる。今だけのことを考えるのではなく、半年、一年という長いスパンで支援の気持ちを持ち続けて欲しい』と。

今は何かできることはないかと考えていますが、のど元過ぎれば…にならないように、継続的に支援していく気持ちを持ち続けていきたいと思っています。

シスポート株式会社 代表取締役 米田 明

いっちょかみ

連載企画 “一丁啮” が行く！ 第39回：電源周波数

今回の東日本大震災で改めて気づいた日本の電源事情。

交流電源は東日本と西日本では周波数が違うために、そのままでは電力の融通ができません。西日本から東日本に電気を送るには周波数変換ができる3カ所の変電所を通さなければならず、その変電所で融通できる最大電力は100万kwといわれています。

一方、東日本で不足しているといわれる電力は1000万kwで、西日本から供給できるのは不足分の1/10にしか及びません。何とも歯がゆい限りです。

そもそも、周波数の違いは明治時代に発電所が各地で生まれていった過程で、ドイツ製の発電機(50Hz)を使った東京と、アメリカ製の発電機(60Hz)を使った大阪との対立に端を発しているそうで、世界的に見ても一つの国で二つの周波数が存在しているのは大変珍しいそうです。

第二次大戦後に周波数の統一構想があったそうですが、戦後復興のどさくさに紛れて実現されなかったツケが大きく回ってきてしまいました。

せめて、東北新幹線・上越新幹線が東京駅まで開通した時、東海道新幹線と直通運転ができないことが議論になり、統一はできなくても周波数変換設備を増やすなどの対策が講じられていれば、いま東日本の方々が困っておられる計画停電(輪番停電)も少しは少なくなっていたのではないかとと思うと悔しい思いがします。

特集

Windows7のちょっと便利な新機能

ここしばらくWindows7に関する記事が続いていますが、今回は比較的簡単な新機能について触れたいと思います。

①Aero スナップ

ウィンドウを画面の外へドラッグします。上にはみ出した場合は自動的に最大化、左右にはみ出した場合は画面半分ピッタリに調整されます。またウィンドウの上部(もしくは下部)の縁を摘んでウィンドウのサイズをはみ出すように変更しようとする、自動的に上下ピッタリに調整されます。

②Aero シェイク

複数のウィンドウが開いた状態でウィンドウのタイトルバーをドラッグしてシャカシャカと左右にふると、それ以外を最小化できます。

③Aero プレビュー

ウィンドウが開いた状態でタスクバー(通常は画面の最下部)の右端にある小さい縦長の枠へマウスポインターを合わせると、ウィンドウを最小化せずにデスクトップの状態を見ることができます。また、この枠をクリックするとすべてのウィンドウを最小化でき、再度押すと元の状態に戻ります。

④Aero ピーク

複数のウィンドウが開いた状態でタスクバーのアイコンにマウスポインターを合わせるとサムネイル表示されます。これ自体はWindows Vistaからの機能ですが、Windows7ではサムネイルにマウスポインターを合わせるとその他のウィンドウが透明表示になります。

⑤ピン

ウィンドウが開いた状態でタスクバーのアイコンを右クリックして「タスクバーにこのプログラムを表示する」をクリックすると、従来でいうクイック起動に設定できます。

⑥ジャンプリスト

タスクバーのアイコンを右クリックすると最近使ったファイルの一覧が表示され、目的のファイルを手早く開くことができます。IEの場合はよくアクセスするサイトが一覧表示されます。

⑦ホームグループ

ネットワークを「ホームネットワーク」に設定してある場合にしか使用できない機能ですが、[コントロールパネル](カテゴリ表示)→[ネットワークとインターネット]→[ホームグループ]でホームグループを作成できます。ここで何を共有するのかを選択すれば、自動的に共有することができます。

⑧キーボードによるソフトの切り替え

タスクバーの左から順番に対応する数字を[Windows]+数字キーで押すと、そのソフトに切り替えができます。1番左なら[Windows]+[1]です。

読者訪問

第15回

訪問先

会社名：株式会社 西川製作所（ソニック事業部）
 業務内容：精密機械設計・製造
 創立：1945年（昭和20年）
 住所：〒601-8174 京都市南区上鳥羽清井町37-1
 面談者：常務取締役 西川 幸雄 さん
 e-mail：y-nishikawa@ns-nishikawa.com
 TEL：075-661-1780 FAX：075-661-1735
 URL：http://www.ns-nishikawa.com



（西川常務）

今回は、京都中小企業家同友会でも活躍中の（株）西川製作所の西川常務をお訪ねしました。先代が昭和20年に創業された後、ご子息三兄弟がその後を継がれて現在に至っております。『企業は人なり 一緒に夢を形にしませんか？』という企業理念のもと、電子部品の製造装置の製作をなさっております。

大手の電機機器メーカーなどから生産ラインの設備の製作依頼を受け、オーダーメイドでそれぞれのニーズにあった機械を受注生産するという業態で、いわゆる少量多品種受注生産型製造業ということになります。

「数年前までは液晶テレビ関連の設備需要が旺盛だったがもう終わった。これからはスマートフォン、電気自動車、太陽光がキーワードだ」とおっしゃいます。

特にスマートフォン関係は電機各社とも増産体制をとっており、そのために設備投資も旺盛だそうです。

しかしながら、大手製造業の生産現場は中国や韓国、台湾に移っており、昨年は国内工場への納入は一件もなかったそうです。まさに製造業における空洞化を目の当たりになさっているとか。

また、中国の工場に出荷した場合には追加発注が来ないので困っているとおっしゃいます。

「中国は知的財産に対する権利意識が希薄なので、こっちが作って送った設備をそのまま真似て向こうで作る。どうしてもできないところの部品だけ発注してくる。これでは、国内の中小製造業はたまったものじゃない。せめて、もう少し海外移転に歯止めがかけられないものだろうか。このままでは国内の製造業は滅びてしまう」と危機意識を強く訴えておられました。

そのような状況下で同社では5年前に商社機能の充実を期して（株）ジョイテック西川を設立し、オリジナル商品の企画開発や用具や資材などの取り扱いをはじめられました。



また、「今までも取引先の手主メーカーにぶら下がりず、対等で、ある意味ドライな関係を構築する努力をしてきたので、当社の企画力や技術力を評価してくれるところとの“一定の距離を置いた、いい関係”が構築できているのが強みだ」とおっしゃいます。

自社のIT活用度については売上や仕入などの経理的な処理はできているが、生産管理や工程管理などはまだまだ手書きに頼っていると。今後、全体的な業務の効率化や見える化に向けて勉強もしていかなければならないとおっしゃっていました。

中小製造業では、製造現場のIT化はまだまだ進んでおらず、今後ともいろいろな情報交換を通じて、一緒に勉強していきましょうということになりました。

国内製造業の空洞化が進む中で、企画力を武器に日本のものづくりの火を消さないようにこれからも頑張っていきたいと思います。（米田）

‘SOFT-YA’

‘IT-YA !’

Excel ワンポイント講座

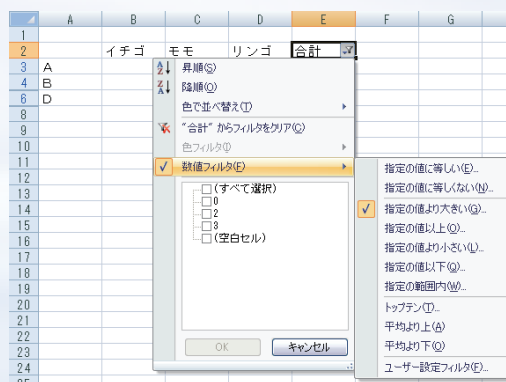


フィルタを使ってみましょう

フィルタ機能を使うと特定のものを抽出することができますが、数値の範囲指定をして条件に合致するものを抽出することができます。

Excel2007の場合

ホーム → 並び替えとフィルタ
 数値フィルタで条件指定



【画面①】

	A	B	C	D	E
1					
2		イチゴ	モモ	リンゴ	合計
3	A	1		1	2
4	B		2		2
5	C				0
6	D			3	3
7					

【画面④】

【画面④】の表で、【画面①】や【画面②～③】のように、合計の列で数値が0以上のものを指定すると、【画面⑤】のようになります。

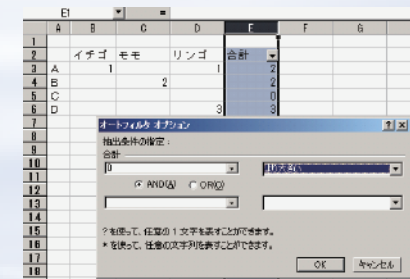
Excel2000/2003の場合

データ → フィルタ

	A	B	C	D	E
1					
2		イチゴ	モモ	リンゴ	合計
3	A	1		1	2
4	B		2		2
5	C				0
6	D			3	3
7					

【画面②】

オプションを選んで条件指定



【画面③】

	A	B	C	D	E
1					
2		イチゴ	モモ	リンゴ	合計
3	A	1		1	2
4	B		2		2
6	D			3	3
8					

【画面⑤】

発行

[Sys:port] リスポート株式会社

〒610-0361 京都府京田辺市河原平田23-16

TEL (0774)-63-1131 FAX (0774)-63-1130

e-mail info@sysport.co.jp

HomePage http://www.sysport.co.jp



第40号 2011年4月発行